

## (1) 背景・目的

仙台駅周辺では、駅前広場の再整備や商業施設の立地などにより、歩行者交通量が近年増加傾向にある。一方で、一番町周辺や市役所周辺など仙台駅から離れたエリアでは通行量が減少する傾向にあり、都心部で人の流れに偏りが生じている。

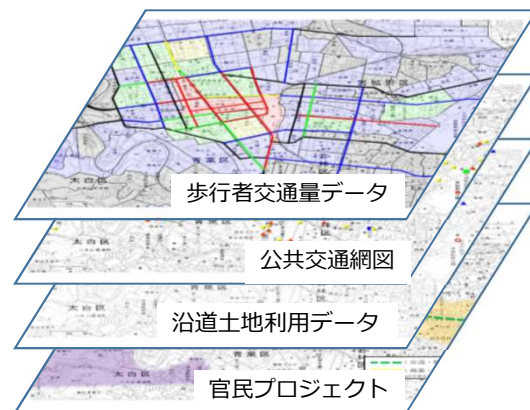
都心部では、老朽建築物の建替えを誘導するとともに、歩きやすい空間整備やイベントなどを実施し、回遊性向上を図ることとしており、定禅寺通や宮城野通などのシンボルロードを中心に賑わい創出に向けた取組みが進められている。これらの取組みは相互に連携することで、都心全体の回遊性が向上し、面的な賑わいを生み出すことが期待される。

本業務は、定禅寺通再整備や音楽ホール整備等も見据え、歩行者等の移動実態や官民の各種取組みを分析しながら、都心の回遊性向上につながる交通機能の確保や歩行者空間等の創出を検討するものである。

## (2) 取組みの流れ

### ①現状把握

歩行者交通量等のデータや公共交通網図、官民プロジェクト等の基礎的な情報を基に、人流分析を行う。



### ②エリアとターゲットの設定

回遊行動は属性や目的などによって大きく異なることから、回遊性を高めるエリアとターゲット（居住地、年代等）を検討する。

### ③交通施策の検討

官民による交流・賑わいを生み出す取組みと連携して、これらの取組みの効果が期待されるエリアにおいて、必要な交通機能の確保や歩行者空間等の創出を検討する。

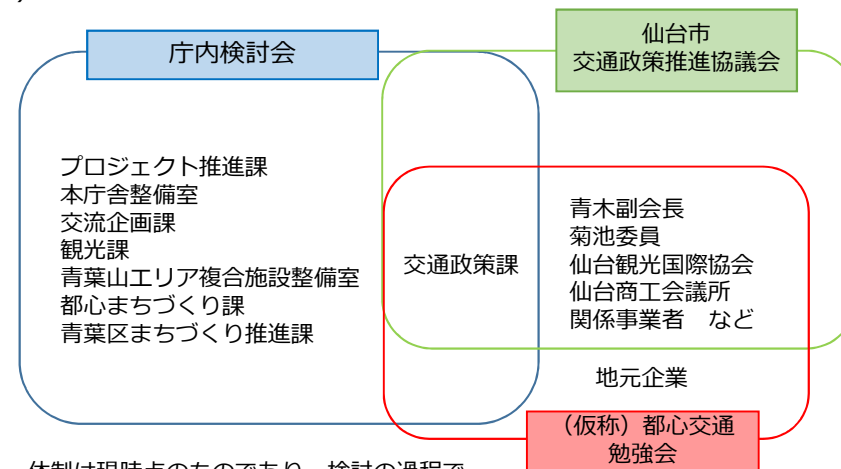
### ④ロードマップの作成

回遊性向上に資する各種交通施策について、効果の度合いや実現の可能性などを考慮し、実施時期を短期・中長期に分けてロードマップを作成する。

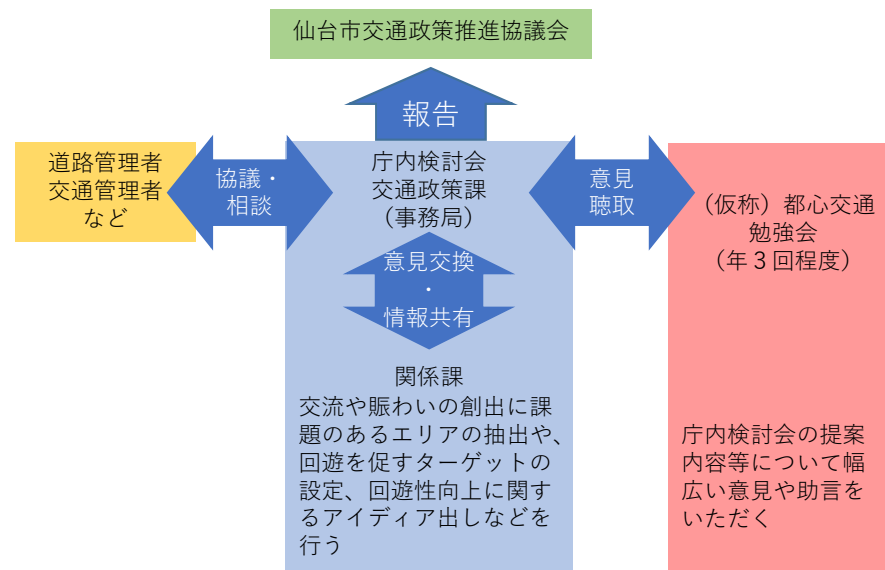
※定禅寺通再整備や市役所本庁舎 I 期工事（ともに令和 9 年度完了予定）、音楽ホール整備（令和 13 年度開館予定）等の主要事業の完了時期を踏まえながら事業化を目指す。



## (3) 検討体制（案）と合意形成プロセス



体制は現時点のものであり、検討の過程で見直しを行う場合もある



## (4) 今後のスケジュール

- 9～12月：都心内の移動実態や官民プロジェクト等の基礎的な情報を基に現状分析
- 12月：第1回都心交通勉強会開催
- 1～2月：検討するエリアとターゲットを設定
- 3月：今後の取組みの方向性についてとりまとめ
- R6年度：交通施策の検討・ロードマップの作成

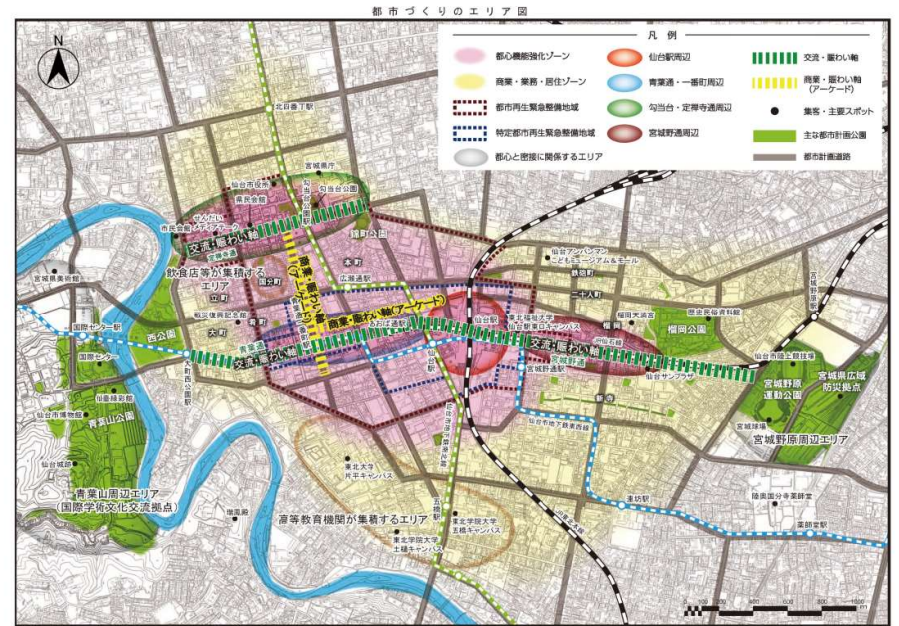
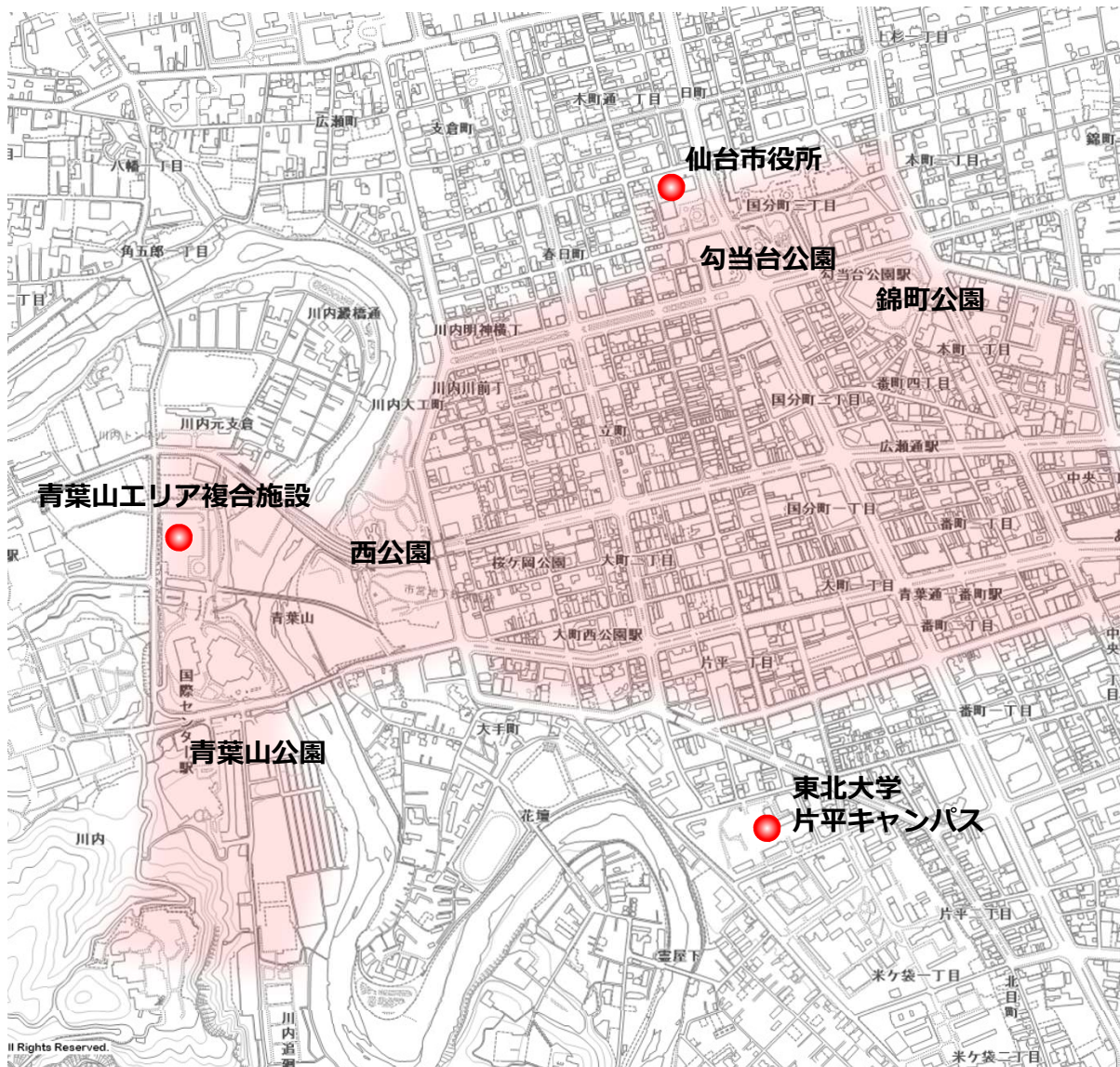


# 都心交通環境の再構築に係る検討範囲

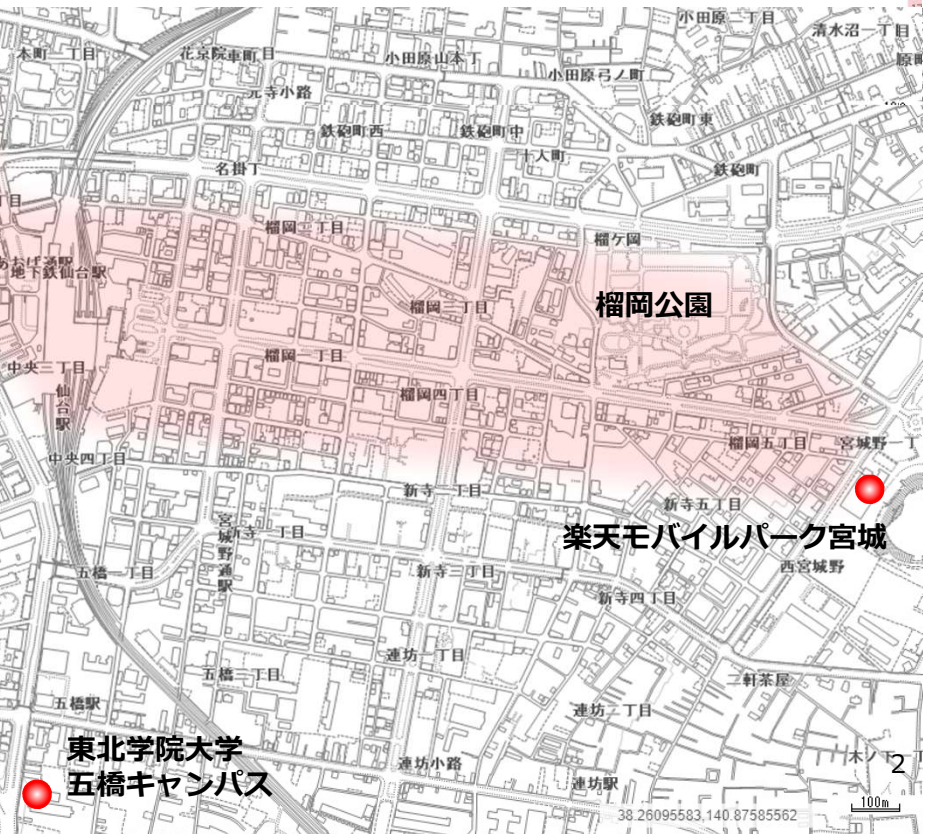
## 【検討範囲】

『仙台市都市計画マスタープラン地域別構想』における都心地区の範囲を基本としつつ、**定禅寺通や青葉通、宮城野通などのシンボルロードを中心に歩行者の回遊行動が特に見込まれる範囲**とする

歩行者の移動実態や官民の各種取組みを踏まえ、**交流や賑わい生み出す必要があるエリアを抽出**する



仙台市都市計画マスタープラン地域別構想





# 【参考】回遊性向上に係る交通施策（実績）

